障害児の余暇としてのレクリエーション活動やスポーツをとりまく実態調査

～滋賀県下特別支援学校肢体不自由児の養育者へのアンケート調査～

○ 石田哲士(RPT)[1)2)] 山口良美(RPT)[1)2)] 西村美希(RPT)[4)] 小林享子(RPT)[3)] 木下友美(RPT)[5)]
上田将之(RPT)[1)2)] 弘部重信(RPT)[1)2)] 川上寿一(MD)[1)2)]
1)滋賀県立成人病センター リハビリテーション科 2)滋賀県立リハビリテーションセンター 医療部
3)滋賀県立リハビリテーションセンター 支援部 4)滋賀県立小児保健医療センター リハビリテーション科
5)滋賀県立小児保健医療センター 療育部

【主旨】

2011 年にスポーツ基本法が制定され、障害者スポーツの振興が明文化された。しかし、近年、障害者スポーツの認知度は高まってきてはいるものの、多くの障害を持つ人々にとってスポーツは身近なものとなっているとは言いがたい。また、障害者スポーツの普及振興や指導者養成、競技力向上等に関わる研究は近年増加してきているが、これらの多くは成人障害者を対象としており、障害児に関わるスポーツの状況については十分に検討されていない実態がある[1)]。そこで今回、県内特別支援学校肢体不自由児クラスに在籍中の児童の養育者を対象に、余暇としてのレクリエーション活動やスポーツに関するアンケート調査をおこなった。103 名（29.0%）の回答があった。対象児の 81.0%が GMFCS[2)] LevelⅣ-Ⅴに該当しており、重症な児童の在席が多い結果であった。養育者の過去の共有体験と子どもとの活動の関連性は低い結果となった。 余暇活動の内容としては、平日は自宅内を中心とした活動で、週末は自宅外へ、長期休暇などでは家族での楽しみや経験を中心とした活動が多くあげられていたが、デイサービスやサマーホリデーサービス事業※1 の利用を中心とした活動も多くサービスの細分化が重要となる可能性が示された。余暇としてのレクリエーション活動やスポーツは 70.9%の養育者が行いたいと回答したが、行う機会があると回答したのはわずか 31.1%であった。しかし、行う機会が無いとした回答者の 85.5%も機会があればさせたいと答えていた。実施上での予測される障壁としては、介助負担やマンパワー不足、環境不整備などの問題が山積している現状が明らかになった。余暇としてのレクリエーション活動やスポーツは、障害のある人が近親者以外の社会と繋がりを持つことができる数少ない機会のひとつで、余暇としてのレクリエーション活動やスポーツが、スポーツによる社会化※2や競技スポーツへと繋がるためには障害特性を理解したうえで実施できる環境の整備、広報活動や体制作りも必要であることが言える。

キーワード：特別支援学校、余暇、障害児、肢体不自由、障害者スポーツ、レクリエーション活動

【はじめに】

障害児／者のスポーツ参加は心身の健康増進や二次障害予防、余暇活動や社会参加の一環としての役割や、当事者及びその家族が様々な情報を共有するための交流の場としての意味合いがある。しかしながら、それらを取り巻く状況は非常に厳しく、気軽にスポーツを楽しむには、社会の認識不足や環境の整備状況、または情報の活用において、解決すべき課題が未だ山積している。本国においては、2011 年にスポーツ基本法が制定され、障害者スポーツの振興が明文化された。しかし、近年、障害者スポーツの認知度は高まってきてはいるものの、一部のトップアスリートを除き、多くの障害を持つ人々にとってスポーツは身近なものとなっているとは言いがたい。また、障害者スポーツの普及振興や指導者養成、競技力向上等に関わる研究は近年増加してきているが、これらの多くは成人障害者を対象としており、障害児に関わるスポーツの状況については十分に検討されていない実態がある[1)]。

滋賀県下においては、県立障害者福祉センター／障害者スポーツ協会などが施設提供の場や情報発信の中心となり多様なサービスを提供している。しかし県下唯一の施設のため、地域特性や時間の制約等から気軽にサービスを利用出来る機会を得られているとは考え難い。また、余暇活動の一環としてレクリエーション活動やスポーツを通じた社会参加場面においても、障害特性は様々であり、個別的な対応や特別な配慮が必要になるため、利用可能な機会や施設、また選択できるスポーツの種類は極めて少なくなり、社会全体に占める参加の機会は非常に少ないことが予想される。

レクリエーション活動やスポーツを通じ余暇を楽しむには、親をはじめとした養育者自身の認識と理解、そして情報収集能力や特別な行動力、環境に対しての準備等が必要不可欠になるが、養育者を対象とした現状調査や実態状況をまとめた研究報告は見当たらない。藤田ら[3)],2009/金山ら,2008/下村ら,2008/安井,2007らの普通学校および特別支援学校に在籍する体育授業に関する研究の報告はあるが、これらの多くは「普通学校（特別支援学級を含む）」に在籍する障害児を対象としたものであり、「特別支援学校」に焦点を当てた調査はほとんどみられない[1)]。同様に滋賀県下においても、特に肢体不自由児を対象とした余暇活動の一環としてのレクリエーション活動やスポーツ参加における調査研究は行われていない。

本調査は、障害児の余暇としてのレクリエーション活動やスポーツをとりまく現状や課題を把握することを目的に、県内特別支援学校の肢体不自由児学級に在籍する児童の養育者に対し、余暇活動の実態や障害者スポーツに関する認識の実態を探ることにある。今回の調査結果により、社会参加のひとつとしての余暇活動や余暇としてのレクリエーション活動やスポーツの参加が促され、地域医療の中で県民全体の健康増進を行う環境の整備や機会を増やす為の基礎資料とする。尚、報告書において各種法律や公文書等においては、2015 年 10 月現在「障害」が使われているため原則「障害」と表記する。

【方法】

1. 対象施設および対象者

対象施設および対象者は、滋賀県立特別支援学校 16 校[3)4)]のうち、肢体不自由児学級を有する 8 校の小学部～高等部に在籍する全肢体不自由児（対象児）とその養育者である。

対象学校と各学校の在籍肢体不自由児数は、甲良養護学校（36 名（小学部:16 名、中学部:11 名、高等部:9 名））、三雲養護学校（51 名（23 名、16 名、12 名））、新旭養護学校（8 名（2 名、2 名、4 名））、草津養護学校（69 名（33 名、18 名、18 名））、八日市養護学校（36 名（21 名、7 名、8 名））、北大津養護学校（37 名（15 名、7 名、15 名））、長浜養護学校（43 名（19 名、13 名、11 名））、野洲養護学校（74 名（36 名、16 名、22 名））の計:354 名（小学部:165 名、中学部:90 名、高等部:99 名））であった。

2. 調査期間・方法

調査期間は 2015 年 12 月 18 日～2016 年 1 月 11 日とし、方法は郵送アンケート形式で資料を送付し回収した。アンケート用紙は、KJ 法を用いて内容を整理し作成した。各養育者への配布は、各特別支援学校の校長を通じ、各学校の保護者会の了承を得た後、各クラス担任を通し、家庭との情報共有として使用されている連絡ノートを活用して配布し、養育者に回答を依頼した。回答は選択式と自由記載の書式とした。

3.アンケート送付までの経緯

はじめに滋賀県障害者スポーツ協会、滋賀県教育委員会スポーツ健康課に余暇活動や学齢期における障害児スポーツ活動に関する調査歴が無いことを確認した。滋賀県教育委員会、特別支援担当者に調査研究の企画概要を伝え、助言や協力を依頼した。滋賀県特別支援学校校長会での概要説明を依頼し助言に基づき、実施概要・アンケート内容の修正を行った。各学校長への連絡窓口となった草津養護学校へ訪問し学校長の意見を元に修正を重ねた。配布手順（各学校長の承諾、各学校での保護者会承認、各担任への学校長からの依頼）の確認を行った。校長会にて直接説明を行い、再三の加筆修正の後、実施可能との合意を得た。2015 年 12 月 15 日に各特別支援学校長宛へ書類の発送を行った。

4. 調査項目

調査内容は、質問 1）基本情報に関する内容（学年／同居家族の構成／通院歴／移動能力／外出時の移動手段）、質問 2）養育者の過去の経験に関する内容（養育者の幼少期の体を使った親子の共有体験の有無について／共有体験から得た経験の共有の試みについて／共有体験の達成の有無／実施時の苦労や非実施時の理由について）、質問 3）余暇活動状況に関する内容（余暇の過ごしかたについて／興味のある余暇活動について）、質問 4）余暇としてのレクリエーション活動やスポーツに関する内容について、質問 5）スポーツに関する印象に関する 5 項目とした。（巻末資料　アンケート用紙）

5. 統計／分析方法

質問 1）基本情報は記述統計を用いて結果の割合をまとめた。質問 2）記述統計と自由記載の内容を屋内／屋外での活動に分け、詳細を任意のカテゴリーに分類し、整理した。質問 3）記述統計と自由記載を余暇活動の種類別に積極的意見と消極的意見に分類し、項目を整理しまとめた。質問 4）記述統計と、詳細をテキストマイニング[5]手法を用いた視覚化と、KH-Coder[6)7)]を用いて整理した。質問 5）記述統計を用い記載した。

6. 倫理的背景

対象者は滋賀県立特別支援学校肢体不自由児学級に在籍する肢体不自由児とその養育者とし、滋賀県立特別支援学校校長会にて研究代表者が研究協力依頼書に基づき紙面及び口頭にて研究の目的と方法を説明し承認を得た。養育者への説明文には、厚生労働省疫学調査のための倫理指針[8)]に基づき、調査の趣旨、返信を以って研究に対し同意が得られたものと判断する旨、調査に対する拒否は対象者の自由意志で行える事を明文化した。得られたデータは、匿名化された個人情報として取り扱い、研究終了後 5 年後までに破棄することにした。なお、本研究は滋賀県立リハビリテーションセンターの倫理委員会の承認（承認番号　滋リ倫審第 201502 号）を得て実施した。

【結果】

回収率について

アンケートを実施した全 354 名の肢体不自由児の養育者の内、103 名からの回答があった。回収率は 29.0%であった。

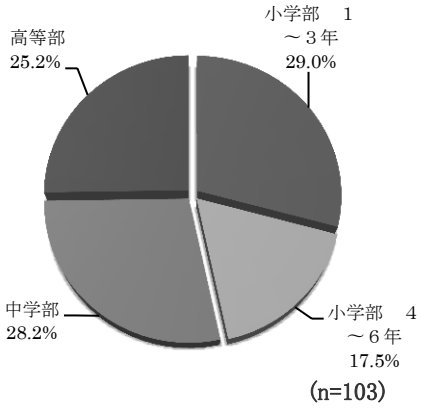
1. 基本情報について

1)在籍学年の分布について

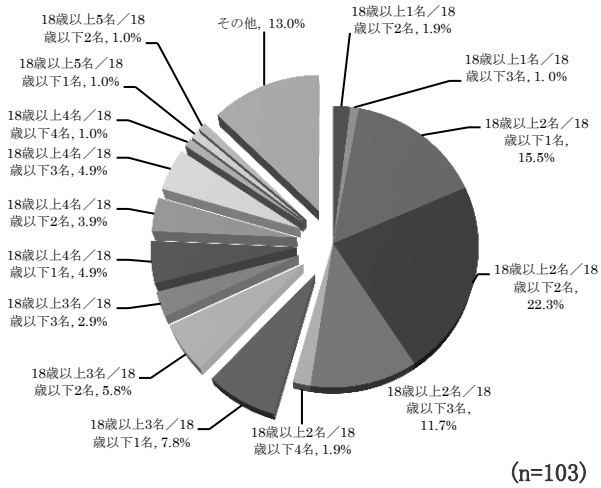
対象児の在籍学年の分布の結果を(図 1)に示した。小学部(1～3 年):30 名(29.0%)、中学部:29 名(28.2%)、高等部:26 名(25.2%)、小学部(4～6 年):18 名(17.5%)、の順での回答があった。

2)回答者の家族構成について

回答者の家族構成の結果を(図 2)に示した。18 歳以上 2 名かつ 18 歳以下 2 名の家族構成が 23 件(22.3%)で最も多く、次いで 18 歳以上 2 名かつ 18 歳以下 1 名が 16 件(15.5%)、18 歳以上 2 名かつ 18 歳以下 3 名が 12 件(11.7%)、18 歳以上 2 名かつ 18 歳以下 4 名が 2 件(1.9%)であった。



(図 1) 対象児の所属



(図 2) 回答者の家族構成

3)医療機関への通院歴について

対象児の 87 人(84.0%)が現在も通院中であり、16 人(16.0%)は過去に通院歴があった。

4)対象児の移動能力について

対象児の移動能力を Gross Motor Function Classification System[2)](以下 GMFCS)の Level 分類に対応させた結果を(表 1)、(図 3)に示した。

(図3) GMFCS 分類

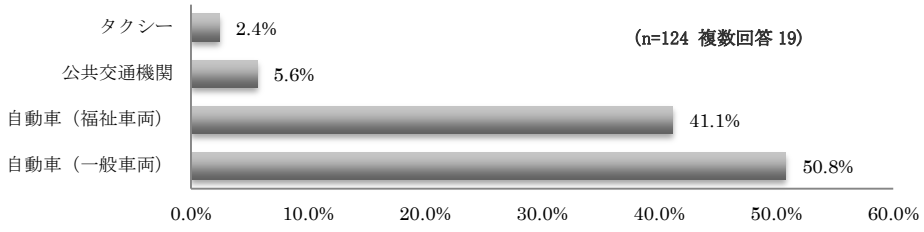
(表1) GMFCS 分類

Level	Ⅰ	12 件	(11.4%)
Level	Ⅱ	2 件	(1.9%)
Level	Ⅲ	5 件	(4.8%)
Level	Ⅳ	11 件	(10.5%)
Level	Ⅴ	74 件	(70.5%)
無回答		1 件	(1.0%)

(n=105 重複回答2)

5)外出時の主な移動手段について

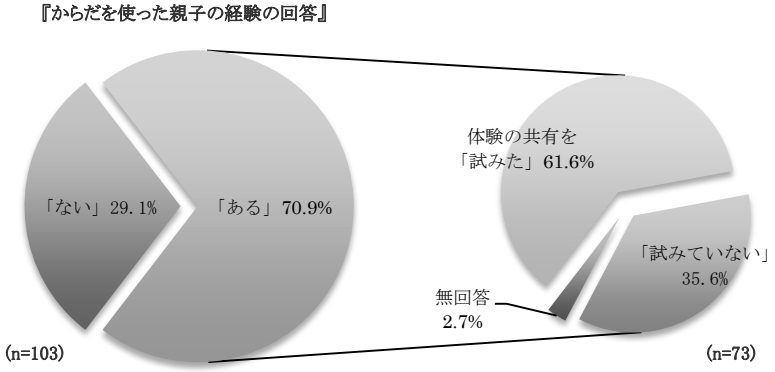
外出時の主な移動手段についての結果を(図 4)に示した。一般車両の利用が 63 件(50.8%)と最も多く、次いで福祉車両の利用が 51 件(41.1%)であった。



(図 4) 外出時の主な移動手段

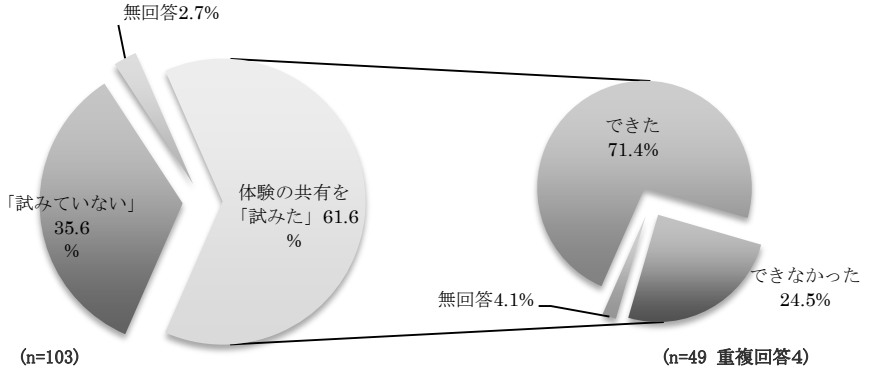
2. 養育者の過去の経験に関する回答について

養育者が子どもの頃に、からだを使って親子で遊んだ経験の有無の結果を(図 5)に示した。体を使った親子の経験を 73 名(70.9%)が「ある」と答え、30 名(29.1%)が「ない」と答えた。また、「ある」と答えた 73 名のうち、45 名(61.6%)はその体験をお子さんとも共有しようと「試みた」が、26 名(35.6%)は「試みていない」とあった。



(図5) 養育者の過去の経験と試み

体験の試みの達成の可否についての結果を(図 6)に示した。体験の共有を「試みた」45 名の内 35 名(71.4%)はその試みを「達成できた」と回答し、12 名(24.5%)は「達成できなかった」と回答した。



(図6) 共有の試みと達成の可否

共有体験の試みの記述内容を分類し(表 2)に示した。活動内容は屋内での活動と屋外での活動に分類した。屋内での活動に関する記述は 7 であった。屋外での活動に関する記述は 46 であった。

(表2) 共有体験の内容と分類

屋内	記述数(7)
スキンシップを中心とした活動	7

屋外	記述数(46)
公園等での活動	26
プールでの活動	11
スキー・そり遊び	4
その他(乗馬・カヌー・ヨガ・田植え・稲刈り・・・等)	3
療育教室での活動	2

共有体験の試みを実施してよかったことを(表 3-1)、行う上での苦労や、できなかった場合の理由を(表 3-2)にカテゴリー化して記載した。「良かったこと」に関する記述が 15、「苦労したことやできなかった理由」に関する記述が 31 であった。

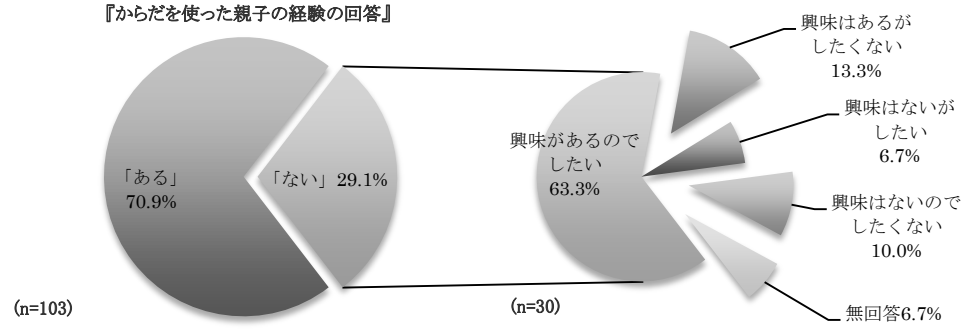
(表3-1) 共有の試みを実施して良かったこと

良かったこと(15)	
経験(4)	1. 新しい経験を積むことが出来たこと 2. 一緒に体験できたことはとても良かった。 3. 身体が小さく、親が楽に介助できる時にいろいろ体験し、本人が好きな活動が分かり、大きくなった今でも続けられているのがよかったと思います。 4. いつもの仰向けと違い、たくさんの姿勢や環境の違いを味わえた。(経験)
喜んだり、楽しんだこと(9)	1. 子供が喜び、子供の経験が広がること 2. 身体が小さいうちしかダッコできないので、できる限りの遊具は一緒にした。特にロープウェーは風を感じることができてとても喜んでいて良かった。 3. 子供にあった遊び方を考えながら、リハビリの先生に相談しながらすすめていき、親子で楽しくできたことです。 4. 親子で一緒に楽しんで笑顔になれた。 5. 出来なくても雰囲気で楽しめていた。 6. 子供がとても喜んだこと。 7. 子供は喜んでいるようなので良かったと思う。 8. 子供が楽しんでいるのでよかった。 9. 揺れることで大喜び。笑顔、笑い声、満足した顔が見られた。
その他(2)	1. 反射神経の有無がわかって、後日の参考にした。 2. 水泳は小さい頃からプールへ通い、徐々に浮き輪で 1 人で浮けるようになり、手足を動かし進めるようになり、先日記録会に出場し 25m を 6 分かけて 1 人で泳ぎ切ることができました。こつこつ続けていくと、できないことができるようになってきています。

(表3-2) 共有の試みを実施して苦労したことやできなかった理由

苦労したことやできなかった理由(31)	
成長に伴う介助負担(12)	1. 身体介助が大きくなるとしんどいこと 2. (子供が)歩行が出来ないので体重増加によって、親が介助しにくくなった。 3. 小学 1, 2 年生ぐらいまでなら、持ち上げる抱えることが出来ましたが、それ以上になると体重、身長が増え、持ち上げるような遊びは出来なくなりました(小 2 までは、体重が 12kg 位でした)。 4. だんだん重くなり、抱っこするのが大変になった。(首もすわらず、移動が難しかった) 5. 小さい頃はできたが、大きくなってくると出来ない 6. 子供が小さい頃は、抱きかかえてだいたい何でも出来ましたが、小学校に入学し身体が大きくなってきてからは、だんだん行けなくなりました(特に雪の上、プール、海は車いすでは難しい)。 7. 車いすから降ろして抱っこして 1 人で行くのは、私の体力もなく荷物、車いすを 1 人で運んだりするのが大変だった。 8. 最近では身体が大きくなり母だけでは一緒に行けないので、出かけなくなりました。 9. 大きくなってからは、喜ぶことはわかっていてもしてあげられない(重いので) 10. 本人のやる気があるか？興味があるか？身体的に大きくなり、小さいころ親子で出来たことでも出来なくなった。イヤがると全く何もしない。 11. 自転車は、玉ありなら後ろで支えていればこげるけれど、もう自転車のサイズがない(玉つきの)。 12. 大きくなったら、介助できなく全て出来ない
身体機能的に難しい(7)	1. ブランコは姿勢を保つ介助をしながらなので少し大変。 2. 姿勢が不安定 3. 寝たきりの子なので、もう一人介助者が必要だと思った。 4. 移動の介助 5. 公園などでは他の子とペースが違いマヒもあるので、じっくり自分のペースで遊びたいが難しい。 6. 四肢麻痺などで難しかった 7. 体幹がしっかりしていないので、若干難しいがまだ小さいのでできる。
更衣困難(4)	1. スキーウェアを着せて、抱っこしての移動が大変。日々体重が増えて重くなるし、スキーウェアはつるつるしていて、すべって抱っこしにくい。今年は中学生なのでこの先連れて行くのは無理(スキー場)。 2. 普通のプールでは、着替えなどが難しい 3. 車から波打ち際までの移動や着替えが大変だった。 4. 全介助なので着替え等がとても大変でした。
拒否(2)	1. 本人の拒絶 2. 海よりプールの方が好きだったようで、少したって拒否されました。
公共交通機関、駐車場がない(2)	1. バスや電車、対応悪いときもありスムーズに公共交通機関利用できない。 2. P がない、あってもせまいなど
介護者(養育者)の年齢や体力の低下など(4)	1. 歩行時に脇の下に手を入れ支えるので、長時間は介助者の身体に負担がかかるのでずっとは遊べないこと 2. 場所も必要で、介護する者の体力も必要。 3. 親の年齢でしんどかった 4. 私が腰を痛めなければもっとたくさんさせてあげたかった・・・

子どもの頃にからだを使って親子で遊んだ経験が「ない」と回答した 30 名の、余暇としてのレクリエーション活動やスポーツへの興味に関する結果を(図 7)に示した。「興味があるのでしたい」との回答が 19 名(63.3%)あった。



(図 7) 余暇としてのレクリエーション活動やスポーツへの興味(過去に共同体験なし)

3.余暇活動について

1)平日の学校からの帰宅後の余暇の過ごし方については118の記述があり、6つのカテゴリーに分類し、その結果を(表 4-1)に示した。

2)週末等の休みにおける余暇活動としては 184 の記述があり、9 つのカテゴリーに分類し、その結果を(表 4-2)に示した。

(表 4-1) 余暇の過ごし方について:平日の学校からの帰宅後

自宅内での活動	記述数(61)
① 休息・睡眠	19
② テレビ・DVD 音楽鑑賞 ゲームなど	42

自宅外での活動	記述数(57)
③ ヘルパーさんと散歩など	10
④ サービス利用(日中一時、デイサービス)	30
⑤ 学童	8
⑥ 通院・外来リハビリテーション	9

(表 4-2) 余暇の過ごし方について:週末等の休み

自宅内での活動	記述数(67)
① 休息・睡眠	23
② テレビ・DVD 鑑賞、ゲームなど	44

自宅外での活動	記述数(117)
③ ヘルパーさんと散歩/移動支援など	10
④ サービス利用(日中一時、デイサービス)	18
⑤ 学童	2
⑥ 通院・外来リハビリテーション	0
⑦ 買い物など家族での外出	37
⑧ 散歩やスポーツ、レクリエーション	38
⑨ 娯楽施設やイベント参加	12

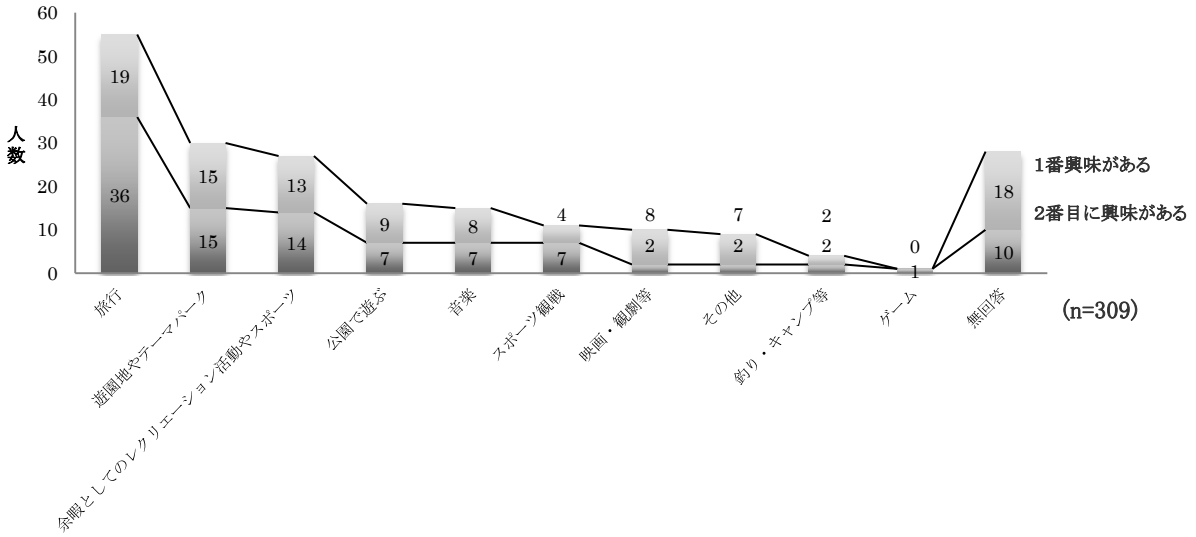
3)春/夏/冬休みなどの長期休暇の活動を、10 のカテゴリーに分類し、その結果を(表 4-3)に示した。自宅内での活動は 30 で、自宅外での活動が 93 であった。

(表 4-3) 余暇の過ごし方について:春/夏/冬休みなどの長期休暇

自宅内での活動	記述数(30)
① 休息・睡眠	13
② テレビ・DVD 鑑賞、ゲームなど	17

自宅外での活動	記述数(93)
③ ヘルパーさんと散歩/移動支援など	5
④ サービス利用(日中一時、デイサービス、サマースクール)	35
⑤ 学童	6
⑥ 通院・リハビリ	5
⑦ 買い物など家族での外出	8
⑧ 散歩やレクリエーション	15
⑨ 娯楽施設やイベント参加	5
⑩ 旅行や帰省	14

4)家族での余暇活動として最も興味があるもの、次に興味があるものの結果を(図 8)に示した。



(図 8) 家族での興味のある余暇活動

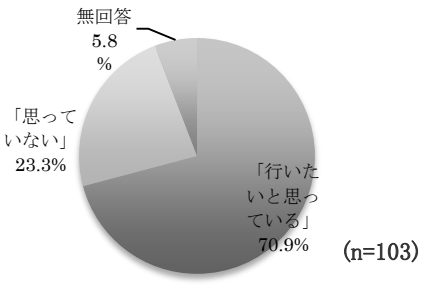
5)余暇活動として興味があるものの理由

大きく積極的意見と消極的意見に分け、さらに積極的意見を嗜好、刺激・経験、家族活動、簡便に分類した。旅行に関する 50 の記載の内、積極的意見 39、消極的意見 11 であった(巻末資料:表 5-1)。遊園地やテーマパークに関する 23 の記載の内、積極的意見 20、一方消極的意見 3(巻末資料:表 5−2)。余暇としてのレクリエーション活動やスポーツに関する 32 の記載の内、積極的意見 28、消極的意見 4(巻末資料:表 5−3)。公園で遊ぶに関する 12 の記載の内、積極的意見 11、消極的意見 1(巻末資料:表 5−4)。音楽に関する 17 の記載の内、積極的意見 16、消極的意見 1(巻末資料:表 5−5)。スポーツ観戦に関する 11 の記載の内、積極的意見 10、消極的意見 1(巻末資料:表 5−6)。 映画や観劇に関する 8 の記載の内、積極的意見 8、消極的意見 1(巻末資料:表 5−7)。 その他に関する記載 8 の内、積極的意見 5 で、消極的意見 4。(巻末資料:表 5−8) 釣りやキャンプに関する記載 4 はすべて積極的意見であった(巻末資料:表 5−9)。 ゲームに関する記載は積極的意見であった(巻末資料:表 5−10)。7 つの無回答記載の内、積極的意見 4、消極的意見 3 であった。(巻末資料:表 5−11)

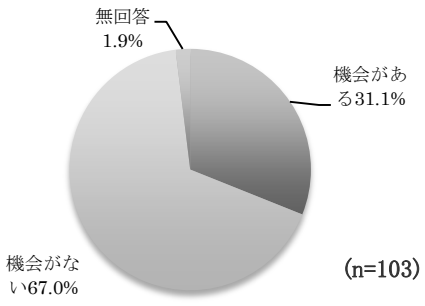
4. 余暇としてのレクリエーション活動やスポーツについて

1)対象児が余暇としてのレクリエーション活動やスポーツの参加希望の質問結果を(図 9-1)に示した。「行いたいと思っている」73 名(70.9%)、「思っていない」24 名(23.3%)、無回答 6 名(5.8%)であった。

2)現在、余暇としてのレクリエーション活動やスポーツを 32 名(31.1%)が「行う機会がある」とし、69 名(67.0%)が「ない」と回答した。(図 9-2)



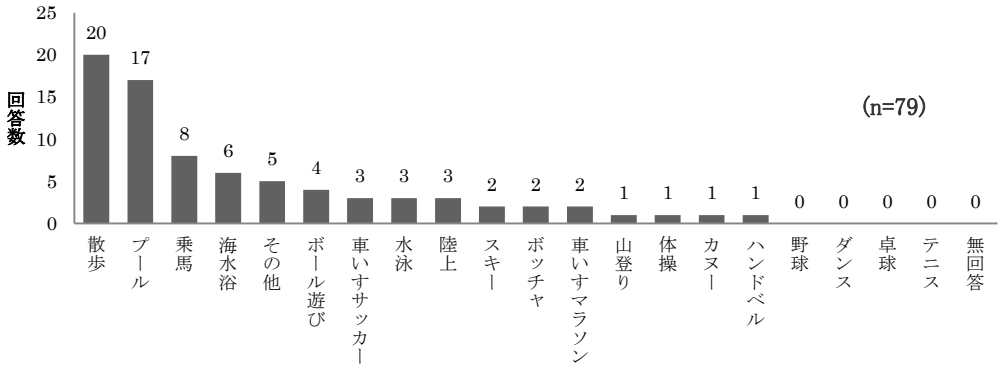
(図 9-1) 余暇としてのレクリエーション
活動やスポーツへの参加希望状況



(図 9-2) 余暇としてのレクリエーション
活動やスポーツの機会

3)－(Y)「行う機会がある」とした 32 名の回答

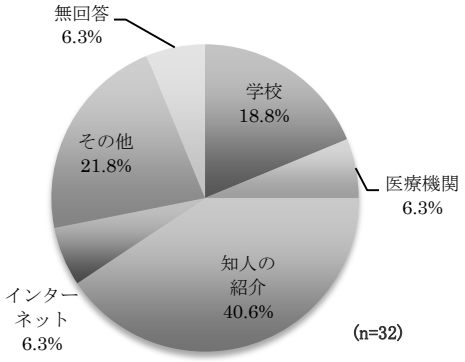
Y)-1 現在行っている活動内容としては複数回答を含め 79 件の回答があった。(図 10)



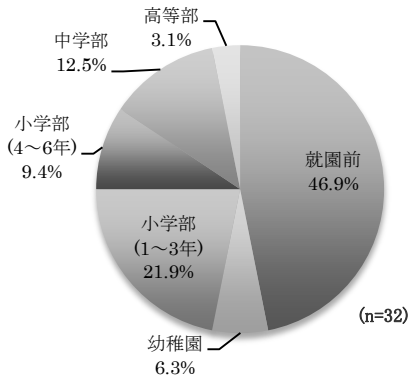
(図10) 余暇として行っているレクリエーション活動やスポーツ

Y)-2 情報源は、知人の紹介 13 件(40.6%)、その他 7 件(21.8%)、学校 6 件(18.8%)、医療機関 2 件(6.3%)、インターネット 2 件(6.3%)、無回答 2 件(6.3%)であった。(図 11)

Y)-3 活動開始時期は、就園前 15 件(46.9%)、幼稚園 2 件(6.3%)、小学部(1～3 年)7 件(21.9%)、小学部(4～6 年)3 件(9.4%)、中学部 5 件(12.5%)、高等部 1 件(3.1%)であった。(図 12)

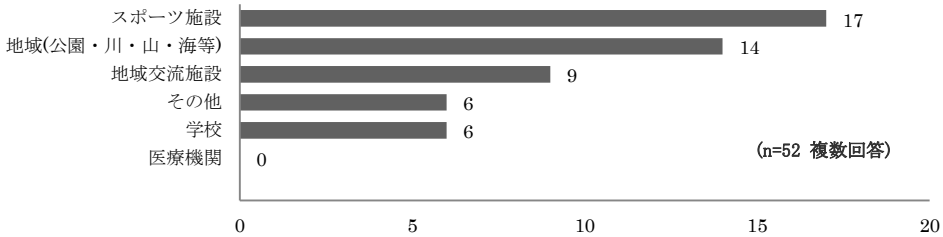


(図 11) 余暇として行っているレクリエーション活動やスポーツの情報源



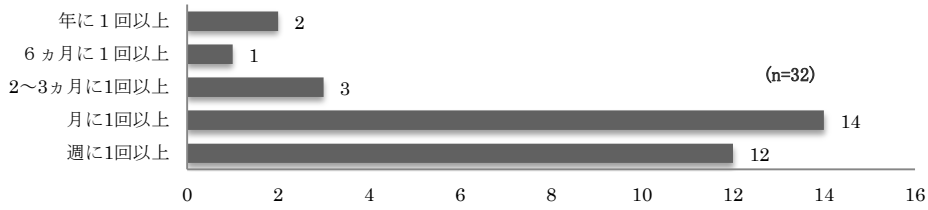
(図 12) 余暇として行っているレクリエーション活動やスポーツの開始時期

Y)-4 実施場所は、スポーツ施設での活動 17 件(32.7%)、地域(公園や川／山／海等)14 件(26.9%)、地域交流施設 9 件(17.3%)、学校 6 件(11.5%)、その他 6 件(11.5%)であった。(図 13)



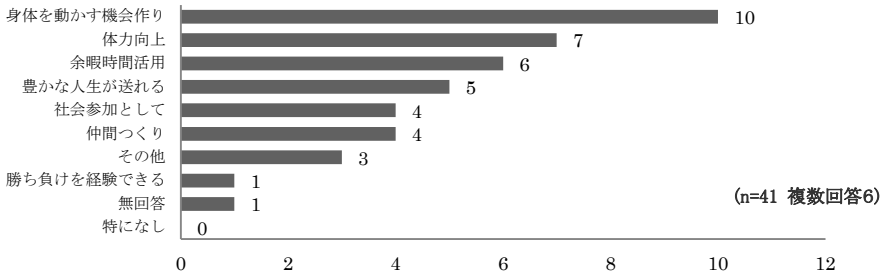
(図 13) 余暇として行っているレクリエーション活動やスポーツの実施場所

Y)-5 活動頻度は、月に 1 回以上 14 件(43.8%)、週に 1 回以上 12 件(37.5%)、2～3 ヶ月に 1 回以上 3 件(9.4%)、年に 1 回以上 2 件(6.3%)、6 ヶ月に 1 回以上 1 件(3.1%)であった。(図 14)



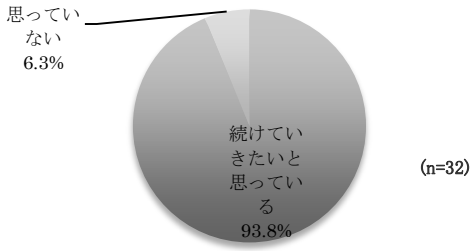
(図 14) 余暇として行っているレクリエーション活動やスポーツの実施頻度

Y)-6 活動に期待している内容を(図 15)に示した。身体を動かす機会作り 10 件(24.4%)、体力向上 7 件(17.1%)、余暇時間の活用 6 件(14.6%)、豊かな人生が送れる 5 件(12.2%)、社会参加の 1 つ 4 件(9.8%)、仲間づくり 4 件(9.8%)、その他 3 件(7.3%)、無回答 1 件(2.4%)であった。



(図 15) 余暇として行っているレクリエーション活動やスポーツに期待していること

Y)-7 今後も活動を続けて行きたい 30 名(93.8%)、思っていない 2 名(6.3%)であった。(図 16)

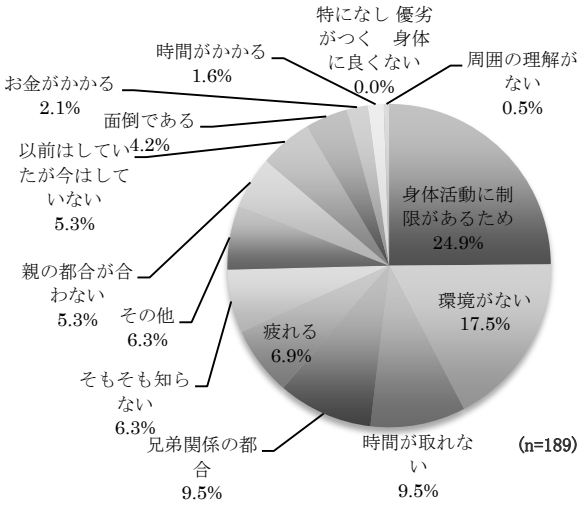


(図 16) 余暇として行っているレクリエーション活動やスポーツを続けていきたいか？

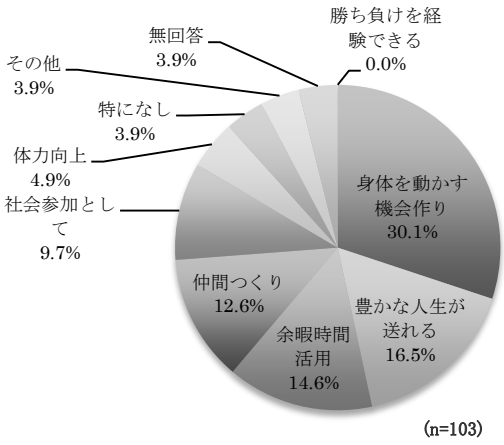
3)-(N)「行う機会がない」とした 69 名の回答

N)-1 現在、活動をしてない理由としては、189 件の複数回答があり、身体活動に制限がある為 47 件(24.9%)、環境がない 33 件(17.5%)、時間が取れない・兄弟関係の都合共に 18 件(各 9.5%)であった。(図 17)

N)-2 余暇としてのレクリエーション活動やスポーツに最も期待している内容としては、身体を動かす機会作り 31 件(30.1%)、豊かな人生が送れる 17 件(16.5%)、余暇時間の活用 15 件(14.6%)、仲間づくり 13 件(12.6%)、社会参加として 10 件(9.7%)、体力向上 5 件(4.9%)であった。(図 18)

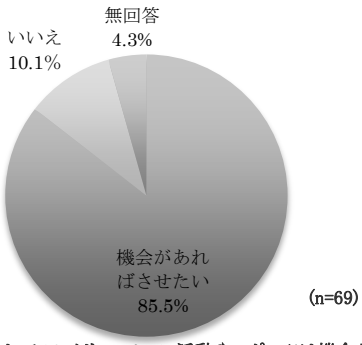


（図 17） 余暇として行っているレクリエーション活動やスポーツを現在活動していない理由



（図 18） 余暇として行っているレクリエーション活動やスポーツに最も期待していること

N)-3 余暇としてのレクリエーション活動やスポーツは機会があればさせたいと考えている 59 件（85.5%）、いいえ 7 件（10.1%）、無回答 3 件（4.3%）であった。（図 19）



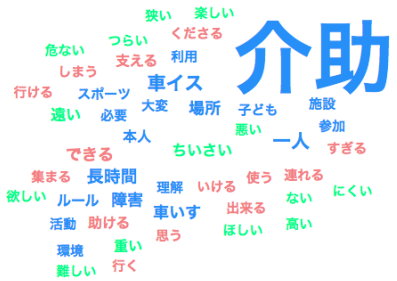
（図 19） 余暇としてのレクリエーション活動やスポーツは機会があればさせたいと考えているか？

3)-1 今後やってみたい、余暇活動としては、（絵を描く／創作活動／クッキング／工場見学／登山／テーマパーク／買い物／コンサート）、レクリエーション活動は（乗馬／芝生ソリ／ボール遊び／板ブランコ／ローラー滑り台）があり、スポーツは（プール／スキー／スケート／野球／サッカー／車椅子バスケットボール／車椅子サッカー／車椅子でできるスポーツ／トランポリン／カヌー／ダンス／ボッチャ）であった。

3)-2 実施する際に予測される障壁等についてのまとめを（図 20-1）（図 20-2）に示した。詳細は巻末資料（表 6）

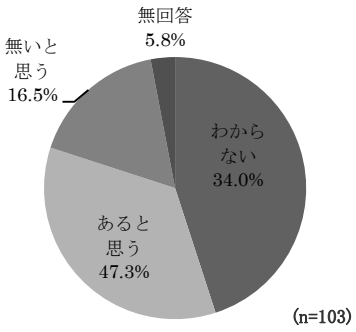
	記述数(49)
① 介助負担	15
② 環境要因(施設環境)	13
③ 障害特性	19
④ その他	2

（図 20-1） 予測される障壁のまとめ

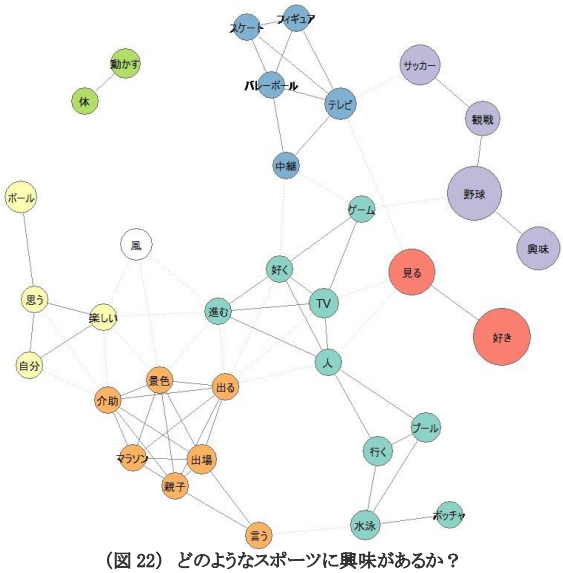


（図 20-2） 予測される障壁のまとめ

4)お子さんはスポーツに興味を持っているか？との質問の回答を(図 21)に、どのようなスポーツに興味があるか？との質問の結果を(図 22)に示した。



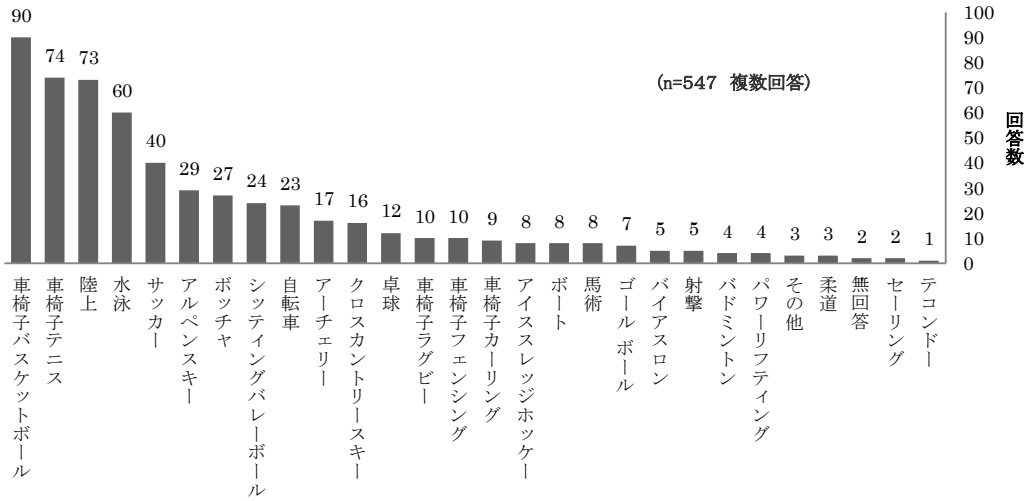
(図 21) お子さんはスポーツに興味があると思いますか？



(図 22) どのようなスポーツに興味があるか？

5. 障害者スポーツの認識度について

結果を(図 23)に示した。車椅子バスケットボール 90 件、車椅子テニス 74 件、陸上 73 件、水泳 60 件の順であった。



(図 23) 障害者スポーツの認識度

【考察】

今回調査対象とした、滋賀県下特別支援学校8校の全肢体不自由児数は354名であり、県内特別支援学校全在籍児童数2113名[4]の16.7%を占めており、特別支援学校における肢体不自由児の占める割合は少ない傾向にあった。

1.基本情報について

① 回答のあった103名の対象児の運動機能能力は、全介助もしくは電動車椅子での移動が中心となるGMFCSレベルⅣ～Ⅴの児童が81.0%であり、移動の際に自力での移動が困難でバギーや車椅子等の何らかの姿勢保持具や移動支援が必要な児童が多数を占めた。物的介助もしくは介助を必要としないGMFCS LevelⅠ-Ⅲに該当する児童の割合は低く、普通学校や特別支援クラスに在籍している可能性が高いことが示唆された。

② 福祉車両を含む自動車での外出が全体の91.9%を占め、外出の際にはシーティング等の使用や乗車中の特別な配慮はもちろん、回答者の55.5%が核家族を中心とした家族構成であることから、移動の際には家族の個々における介助負担が大きいことが予想される。

③ 全ての対象児は過去もしくは現在においても医療機関への通院歴があり、医療機関は余暇としてのレクリエーション活動やスポーツの情報集約や提供の場として利用できる可能性が非常に高いことが考えられる。

2. 養育者の過去の経験に関する回答について

① こどもの頃にからだを使って親子で遊んだ経験がある養育者は、全体の 70.9%であったが、自らの経験を対象児と試みたのは全体の 43.7%にとどまっており、養育者の過去の経験が直接的に現在への共有体験へと繋がっているとは言い難く、養育者の経験を元にした内的な要因の関与は低いことが考えられた。しかし、試みた内の 71.4%は、成功体験が得られたとし、工夫や試みの選択、機会などといった外的な要因の影響によっては参加頻度の増加が見込まれる可能性も秘めていることが考えられる。

② 試みの多くは遊具などを用いた近隣の公園やプール、スキー場でのソリ遊びといった限定された場面での活動や、キャッチボール、サッカーといった身体活動を伴う屋外での活動であり、スキンシップを中心とした屋外での活動は少なく、屋外活動を希望している養育者が多い結果となった。

③ 試みの結果としては、良かったことよりも苦労したことやできなかった理由が多く回答されていた。苦労したことやできなかった理由に関する記述では、更衣困難、対象児の拒否等の記載もあったが、成長に伴う介助負担による理由が最も多く、合わせて親の年齢や介護者の身体的な負担という理由も挙げられており、活動機会においてはヘルパーやボランティアなどといった家族以外に活動を支援する仕組み作りが必要ではないかと考えらえる。

④ また、単に対象児の成長によるものや養育者の年齢だけではなく、対象児の身体機能面からの困難さを理由に挙げた回答も多く、リハビリテーションの専門職による適切な評価や介入の重要性、療育場面やリハビリテーション場面においても余暇活動やスポーツ活動を想定した取り組み内容の検討、使用用具の工夫、公的機関や医療機関においては特別な活動が想定される際の備品の充足や環境整備に関わる働きなどの重要性が課題として挙げられる結果となった。

⑤ 試みてよかった理由としては、対象児の経験や喜んだり楽しんだりする姿を見られた、身体的特徴の把握、努力する価値等、対象児の知的好奇心や感動を経験できたことなどと共に、それらを養育者と共有できたと述べられており、今後も継続していくことの意味合いは高いと考えられる。

⑥ 一方で、養育者のからだを使った過去の経験がない場合でも、63.3%が余暇としてのレクリエーション活動やスポーツを希望しており、家族支援や社会参加支援のツールの一つとなりえる可能性は非常に高いと言える。

3.余暇活動について

① 平日は、自宅内での軽活動が中心、休日は自宅外での活動が多く挙げられていた。長期休暇では、デイサービスやサマーホリデーなどを加えたサービスの利用機会が増えている。このことから、サービスの利用機会を活用し、レクリエーション活動やスポーツ体験などの充実がはかれる可能性は高いと考える。

② 対象児や家族全体の時間が共有しやすい週末や長期休暇には、自宅外での活動やイベント参加や旅行等に家族全員が参加できる活動を実施しやすい。

③ 家族での余暇活動としての興味があるものは旅行、次いで遊園地やテーマパーク、余暇としてのレクリエーション活動やスポーツとあり、障害があっても健常児と同様に家族との時間や経験・思い出を共有できることを希望されることが多いことが結果に反映されたのではないかと考えられた。平日、週末、長期休暇などの機会に応じた余暇活動の支援体制づくりが求められる。

4.余暇としてのレクリエーション活動やスポーツについて

① 余暇としてのレクリエーション活動やスポーツを全体の 70.9%が行いたいと希望しているが、そのうちの 31.1%しか行う機会を得ることができていない実態が明らかになった。

② 内容としては、散歩が最も多く、ついでプール、乗馬、海水浴などの順で、スポーツ参加の現状の報告[9]と一致し

障害児／者スポーツへの参加というより、身近な場所で行える余暇やレクリエーションの要素の強い活動が上位を占める結果となった。レクリエーション活動やスポーツのような生活以外の場面においてもヘルパーやボランティアなどの公的な支援の必要性が求められていると考えられる。活動の場としては学校体育、障害者スポーツセンター、総合型地域スポーツクラブの連携による運動・スポーツプログラムの展開の可能性について、松尾らは 2011 年に施行された「スポーツ基本法」に、障害者スポーツに関する記述がなされ、活動の受け皿としては総合型地域スポーツクラブに対する期待が高まってきているが、総合型地域スポーツクラブ※3 への障害児者の加入が十分に進んでいるとは言えない[1)]と述べている。本県においても 2016 年 3 月現在 52[9)]の所属クラブがあるものの実態は同様である。

③ 情報源は、知人からの紹介が 40.6%と最も多く、医療機関や学校などといった機関からの情報提供は少ない実態がみられ、情報の集約と発信の役割を公的機関が担っていく必要があるのではないかと考える。

④ 余暇としてのレクリエーション活動やスポーツを実施する機会がある場合、就学前などの幼少期や小学部低学年から始めている場合が 75.1%と大半を占め、週 1 回以上または月 1 回以上の頻度で定期的に継続されており、そのほとんどが今後も継続を希望されている。

⑤ 機会がない場合には、機会があれば経験させてあげたいと願うとの回答が 85.5%と全体の 9 割近くに達しているが、現実的には取り組みを行う上で身体活動の制限や環境の不整備、時間的制約が大きな障壁となるために経験できていない実態がある。

⑥ 予測される障壁については、介助負担やヘルパーの利用困難等による人手不足に関する内容、オムツの交換場所や休憩場所、人混みでない環境(感染／体温調整)等に関する内容、一般施設での障害者の受け入れ困難や医療的ケア、看護体制または個々の障害特性に応じたスポーツの選択に関する内容が挙げられており改善すべき課題が山積している結果となった。

⑦ 子供がスポーツに興味を持っているかは約半数が不明と回答した。

5.余暇としてのレクリエーション活動やスポーツについて

① パラリンピックに代表される障害者スポーツの競技種目[10)11)]に関しては、その知名度は低く、車いすバスケットや車椅子テニス・陸上・水泳などと言ったマスメディアに取り上げられる機会が多いものが上位を占めた。2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催、2024 年滋賀国体・全国障害者スポーツ大会の開催を控え、「余暇としてのレクリエーション活動」から「スポーツ」へ、そして「スポーツによる社会化※2」や志向によっては「競技としてのスポーツ」へ移行できる環境（ハード・ソフト両面）の整備、広報活動や体制づくりが必要であることが言える。

【結語】

本研究において、余暇としてのレクリエーション活動やスポーツに関する興味や関心が高いことが示唆された。一方で、マンパワーの問題、施設等の環境要因、個々の障害特性により、取り組みや実施にあたる様々な障壁があることも示された。一部の興味ある養育者が自助努力を中心とした活動を実施しているのが現状である。一般の施設等で取り組みを行うにはマンパワーや施設環境等において困難な要因が山積しており、障害児に対する知識や理解が十分に浸透していない可能性が高いことも障壁の一因であるとも考えられる。

少子化現象で子どもの出生率は減少している反面，低出生体重児の出生率はわずかながらも増加傾向にある[12)]。また、救命率の増加に伴い重度な脳障害を残して生存するケースが増えている[12)]。しかし、障害やその家族を取り巻く環境の認識は進んでいるとは言い難く、障害児を中心とした家族が豊かな生活を送るためには様々なサポートが必要である。障害児の障害特性を理解したうえで、彼らやその家族に必要なサービスに関する情報提供や環境整備、障害児の特性や障害に関する見識の拡大や啓蒙活動、ボランティア活動への協力参加等、専門職として認識を広めること、マンパワーの確保や利用できるサービスを整えること等、あらゆる面で支援体制が必要である。

余暇としてのレクリエーション活動やスポーツへの参加は、障害のある人が近親者以外の社会生活と繋がりを持つことができる数少ない機会のひとつといえる。

【本研究の限界と今後の課題】

回収率からアンケートに回答されていない方の意見は集約されておらず、今回の結果が全ての養育者の意見を反映したものではない可能性が考えられる。

今回の調査は実際のサービスの利用状況などを調査したものではないため、総合型地域スポーツクラブへの肢体不自由児の参加実態、放課後デイサービスの利用と活動内容の調査などが課題となる。

【謝辞】

滋賀県教育委員会特別支援担当　左谷光男氏、滋賀県立守山養護学校の日根野克史校長、草津養護学校の橋本章二校長、各特別支援学校長を始め、担当教員の先生方、また本調査においてアンケートにご理解いただきご協力いただいた養育者の皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

【巻末資料】

（表 5-2） 興味のある余暇活動選択理由：遊園地やテーマパーク

積極的意見(39)	嗜好 (7)	1.	本人が興味があるから
		2.	本人が好きだから
		3.	趣味のため
		4.	色んな場所に行く事が好きなので
		5.	温泉が好きだから
		6.	お出かけ、お泊まりが大好きなので
		7.	限定されるが、本人が行きたい所がある
	家族活動 (19)	1.	家族でゆっくりすごしたい
		2.	両親とも実家が遠く、帰省を兼ねた旅行をするため
		3.	なかなか行けないので家族のためにも
		4.	思い出をつくりたい
		5.	家族全員で楽しさを共有できる
		6.	家族で色々な場所へ、見たり感じたり刺激をもらえるから
		7.	なかなか出かける機会がないので、たとえ近くでも 1 泊でもよいので旅行に行ってみたい
		8.	他の兄弟児も楽しめ、私たち親もリフレッシュできるような旅行へ行きたい
		9.	車イス移動がしやすく、家族みんなが楽しめるから。
		10.	雑事がないので、ずっと家族と楽しめる。
		11.	家族で楽しめるから
		12.	兄弟も、学校やスポーツなどで忙しく、中々家族揃って出掛けることが少なくなったので、全員が揃った時は旅行に行きたい
		13.	私たちも違う空間に身をおきたいから
		14.	他の兄弟のために行ってみたい
		15.	家族で旅行をしたいから
		16.	家ぞくで楽しくすごしたい
		17.	家族も本人も楽しめる活動であるから
		18.	気軽に家族全員で楽しめるため
		19.	年 1 回あるかないかですが、本人も楽しみにしているので
	刺激・経験 (12)	1.	なるべく行ける時に色々な場所に連れて行ってあげたいと思っています。兄姉たちと一緒に過ごす思い出を沢山作ってあげたいと思うからです
		2.	様々な場所を訪れていろいろな物を見たり、経験したりする機会を与えたいから
		3.	お泊まりの体験をして、普段とちがう環境をたのしみたい
		4.	遠くに行きたがらないので連れ出したい
		5.	車以外のものに乗る事は、子どもにとっても親にとっても社会にも必要だから
		6.	いろんな景色を見せてあげたい
		7.	行ったことがない所に行くのもいいものです。
		8.	色々な見聞をひろめられる為
		9.	全く違う環境の中ですごすのでいい刺激にもなる
		10.	両方行ってみたいが、子供が大きくなるにつれて(身体が)移動が大変で行きづらくなっているので、行けるのなら行ってみたい
		11.	いろいろな所へ連れて行って、いろいろな経験をさせたい
		12.	いろんな所に行ってみたい
	その他(1)	1.	知らない土地に行くと、人の目も気にすることなく気軽に遊べるから
消極的意見(11)	(11)	1.	身軽に行けないから
		2.	行きたいけどなかなか思いきれないから。
		3.	温せんに小さい頃はつれて行けたが今はつれて行けない
		4.	家族だけで連れて行ってやるのが難しい為
		5.	体も大きくなり、旅行へ行くのが大変になっているので
		6.	色々経験させたいが、身体も大きくなり外出が困難になってきている。自由に出かけられない。
		7.	旅行には行きたいが移動が大変(長時間)
		8.	オムツ交換等できる場所と休けいする場所を探すのが大変になってきたので、行きたいが行けない……
		9.	上記と同様、重度の障害のある子どもがいるとなかなか旅行に行けないため
		10.	小さい頃はよく旅行に連れて行ったのですが大きくなってから何年も行っていません
		11.	旅行がすきで、いろんな所へ連れて行ってあげたいが、飛行機に乗るのがむずかしい…

（表 5-2） 興味のある余暇活動選択理由：遊園地やテーマパーク

積極的意見(20)	嗜好 (4)	1. 本人が、絶叫マシンが好きだから 2. 動物が好きなので動物園へ連れて行ってあげたい 3. 子どもが喜ぶため 4. 本人が興味があるから
	刺激・経験(11)	1. 1 度遊園地に連れて行き、ジェットコースターやバイキングに乗せましたが、今までにないくらい声を出して喜んでました。 2. 歩く事以外に体に感じる事が出来、楽しかった様です 3. なかなか連れて行ってあげることが出来ないけれど、行けばきっと喜ぶと思います 4. 人の集まるにぎやかな所が好きな為 5. 振動有る乗り物 etc 子供が喜ぶからです 6. 見たり、聴いたりして、何か良い刺激になれば…と思います 7. 人の多い所は避けがちなので、一度連れて行ってあげたい 8. 楽しそうな雰囲気で、本人もよろこんでいるので 9. 東京ディズニーランドとか、行ってみたい。ふんいきで楽しめると思うので… 10. 動く物が好きなので、一緒に楽しませてあげたい 11. ディズニーランドに行きたいです
	家族活動(5)	1. 家族で楽しめるから 2. 他の兄弟のために行ってみたい 3. 家族全員で楽しさを共有できる 4. 家族全員が好きだから 5. きょうだいが行きたがるため
消極的意見(3)		1. なかなかつれて行く事が難しい 2. 家族だけで連れて行ってやるのが難しい為 3. 身軽に行けないから

（表 5-3） 興味のある余暇活動選択理由：余暇としてのレクリエーション活動やスポーツ

積極的意見(28)	嗜好(2)	1. 本人が好きなので 2. うたに合わせ、体を動かせたり、楽器は大好き
	刺激・経験(21)	1. 食べる事が大好きなのに体を動かす機会がないので肥満傾向のため 2. 遠くに出かけづらいので、近くで体を使ってできることがあればいいなぁ～と思います。 3. トランポリンなど揺れる遊びやブランコなどは好きだったので、またやらせてあげたい気持ちがあります 4. プール等の体を使うことをさせてあげたい 5. うちは知的にも重度ですが、歩けないけど思いきり風をきって走りたい、他の子がしていることをやってみたいと思っています。 6. 予定がないと、家の中で過ごす時間が多くなるので 7. 楽しみながら体を動かすことがリハビリにもなればいいなと思う 8. 主人が仕事を優先にする為全く子供と関わらないので思いきり身体を動かせる活動をしてみたかった。 9. 息子を育てていて思ったことは、体が不自由であること以外は他の子どもと何もかわらないことです。 10. 私たちはそれをできないと決めつけるのではなく、できる方法を考え、とにかく経験させてやりたいと思って今まで色々なことに挑戦してきました。 11. 体も大きくなり介助する方は大変ですが、大きくなったことで体力もつき、活動のはばは広がっています。 12. 知的障害も重度の為、ルール等が理解できないが、何か身体で体感できるあそびがあればと思う 13. 障害があってもレクレーションやスポーツを少しでも楽しむ機会を与えたいから 14. 体を使って遊びたい 15. 遊びの場が必要 16. 普段いつでも活動、スポーツして欲しいから 17. 体を動かす経験ができるから 18. スポーツもそろそろしたいです 19. 子供も参加できる活動やスポーツを経験させてあげたいと思う 20. 色々な人との交流ができる 21. 陸上のスロラーム・車イスサッカーに体調が良ければ参加する事に楽しみを感じている
	家族活動(5)	1. いっしょにすごせる 2. きょうだい児も一緒に楽しめること 3. 本人も何か楽しければ家ぞくですごせるので 4. 自分が体を動かすこと、自然が大好きで楽しいと思うから。 5. 家族で楽しむということでできそうだから
消極的意見(4)		1. 一緒に体を動かしたいと思うから 2. 体力的にも限られたあそびしかできないので 3. こちらの体力がいつまでもつかというのが問題ですが… 4. 私では限界があるので男手があったらもっと色々な体験をさせてあげられたと思う

（表 5-4） 興味のある余暇活動選択理由：公園で遊ぶ

積極的意見(11)	嗜好(4)	1.	子供が好きなので。
		2.	外出が好き
		3.	本人が好きなので
		4.	散歩を楽しみにしている
	刺激・経験(3)	1.	人とのふれあい、たくさんは遊べないが外の空気を感じながら過ごすことが大切と考えている
		2.	外の空気を感じさせたい(でも、気候のいい時しか出せない)
		3.	まだ遊具で遊ぶというのは難しい様ですが、少しずつ経験させていく事で、理解してくれればと思います。
	簡便(3)	1.	気軽に行くことができる
		2.	お金もかからず、近場なので親の負担がないから
		3.	手軽に出掛けることができる
	家族活動(1)	1.	きょうだいが行きたがるため
消極的意見(1)		1.	なかなか家ぞくだけであそびがひろがらず、遊具なども少し使用がむずかしいので…

（表 5-5） 興味のある余暇活動選択理由：音楽

積極的意見(16)	嗜好(10)	1.	音楽が好きだから
		2.	障がいをもっている子が好きだから
		3.	歌が大好き
		4.	音楽が好きだから
		5.	音楽は大好きですが、知的があるので大きな声を出しても良い所なら行きたい
		6.	音を聞くのが好きなようなので、楽しんでくれそう
		7.	子どもが好きだから
		8.	いろんな音楽鑑賞も興味ありです
		9.	なかなか障害者を受け入れる教室はないですが、音楽が大好きなので、音楽療法やコンサートには参加しています
		10.	子供はすず鳴らしたり音楽は学校でも好きなレクレーションです
	刺激・経験(5)	1.	昔から反応が良い
		2.	視覚障害重複の為、音に敏感であるから
		3.	難聴があるが、大きな音楽には両手足を動かし、声を出す。
		4.	学校での活動においても、タイコを叩いたりシンバルを叩く時は、目を大きく見開き機嫌も良くなる
		5.	音楽により、気分も変わります。
	簡便(1)	1.	手軽なので(他は何かと大変そう　移動なと…)
消極的意見(1)		1.	行きたいけどなかなか思いきれないから。

（表 5-6） 興味のある余暇活動選択理由：スポーツ観戦

積極的意見(10)	嗜好(7)	1.	子供も好きだから(野球)
		2.	子供の興味が、最近、スポーツ観戦なので
		3.	昨年、相撲や野球を観戦に連れて行き、とても喜んでいた
		4.	フィギアスケートが好きなので一度連れていってやりたい
		5.	サッカー等を観ると大きな声を出し両手足をバタバタさせ喜ぶ
		6.	テレビを見ながらメガホンをたたいて応援のマネをしているので実際にさせてあげたい
		7.	下の子のミニバスケの応援に連れて行くと手をたたいて喜ぶため
	家族活動(3)	1.	家族で野球観戦が好きなので
		2.	私が好きだから
		3.	兄弟がスポーツをしているため、その応援や観戦に一緒に行ってやりたい。
消極的意見(1)		1.	なかなかつれて行く事が難しい

（表 5-7） 興味のある余暇活動選択理由：映画や観劇

積極的意見(7)	嗜好(5)	1.	本人が興味のある事なので
		2.	自分が興味があるところに出かけて行きたい。一緒に！！
		3.	映画やライブは好きなので
		4.	楽しいふんいきが好きなので。
		5.	子どもが興味を持っているから
	刺激・経験(2)	1.	映画は時々行くが劇はなかなか難しい(車イスで)と思うのですが、おしばいなど生での感動を味わってほしい →車イス座席があるのかどうか
		2.	音やキラキラした画像、よろこびそうでつれて行ってみたい。
	簡便(1)	1.	とても忙しく、またお金も時間もないので、せめて数時間映画など観て過ごしてみたい
消極的意見(1)		1.	でもキャーキャー大声でさわぐので他の人のめいわくになりそうで、実現しにくい

（表 5-8） 興味のある余暇活動選択理由:その他

積極的意見(5)	嗜好(3)	1. ほしい物がある時だけついてくる 2. 本人が好きだから 3. 生き物がすき
	簡便(2)	1. 人の少ない(フォレオ一里山)大型スーパー 2. 大きな声を出しても、人が少ないので行きやすい。食事もできるので
消極的意見(4)		1. 何もできないから 2. 普通車しかない！ 3. 車イスにペダルのついたものを練習させたいが高くて買えない 4. 小さい頃は自転車のうしろにのせていたが大きくなってなかなか難しい。

（表 5-9） 興味のある余暇活動選択理由:釣りやキャンプ

積極的意見(4)	嗜好(1)	1. 本人が釣りが大好きなので
	刺激・経験(1)	1. 経験した事がないから
	家族活動(2)	1. 障害のない他の兄弟にアウトドアの経験をさせたい 2. 釣りに息子が興味があるため、家族で時々行きます

（表 5-10） 興味のある余暇活動選択理由:ゲーム

積極的意見(1)	嗜好(1)	1. 高等部になってからはゲームにむちゅう

（表 5-11） 興味のある余暇活動選択理由:無回答

積極的意見(4)	刺激・経験(4)	1. 家族以外に誰かが入っているとすごくよろこびます。 2. 人とのふれあい、たくさんは遊べないが外の空気を感じながら過ごすことが大切と考えている 3. 外の空気を吸わせたい 4. 家族だけでの余暇活動はもっぱらドライブです
消極的意見(3)		1. でも公園や遊園地や旅行などはもう介助が大変なので行けません。 2. どこでもトイレが出来ない！ 3. 家族だけ(3人)でどこかへ行っても全くよろこばないので(泣いていやがる)ある年から行かなくなりました。

（表 6） 予測される障壁まとめ

介助負担 (15)	1.	親が忙しい.妹とペースが合わない
	2.	歩けないので、おぶるにも本人もしんどいかな？40kg は重いし私たちもむりかなあ。どこのお寺も階段があるので、連れて行っても下で待ってないといけないな…と思う。本人はお寺や神社が好きです。
	3.	男性ヘルパーさんがどの事業所も少ないのであまりプールへ入れない
	4.	重度の障害があり、全介助のため介助者が複数必要.楽しむには環境作りも必要で、仲間と共にバスなどで行き、一緒に楽しめることが必要
	5.	介助が大変
	6.	どんなことをするとしても私一人では子ども支えることが出来ないので、いろんな人に助けてもらいながら活動しないといけない
	7.	まだ持っていないので自由にすぐできるわけではないが、購入したとしても家族3 人ではだっこして乗せたり降ろしたり、カヌーを運んだり、あと娘の介助など簡単にできないことが予想されます。助けてくださる方がいてできることなのかもしれない。
	8.	自分 1 人は無理（全介助の為）
	9.	全介助の為、どこまで出来るか
	10.	重くなってきて介助がつらいので、外にでなくなる
	11.	介助者が必要。人員確保ですかね‥
	12.	介助する人が必要（親以外に）
	13.	運転が苦手なのでどこにでも連れて行くことができない。一人では介助も大変。ヘルパーさんを使うとお金、時間かかりすぎる
	14.	一緒にサポートしていただける人がほしい
	15.	全介助なので、付添なしの参加が出来るか、とか場所が遠い等のことで通うことが難しくならないか
環境要因 (13)	1.	場所 etc ない　近くにもない.重度心身障害児をみてくれる所がなさすぎる
	2.	体育館等へは自由に出入りができない。利用目的、利用対象者が限定されている
	3.	遠方への移動.施設の環境
	4.	場所がない
	5.	肢体不自由と知的障害のある子を受け入れてくださる施設があるかどうか、ということ.安全面での配慮をどのようにするか、ということ
	6.	スキー場がバリアだらけ…かな
	7.	元気に走り回る子がいると、危なくて行けない。.オムツをかえる場所があるか、体を休める場所があるか
	8.	車イスの完全介護の暑がりなので、たくさんの人の集まるホールなどでは汗だくになってしまったり、足場が悪いと前進するだけで大変だったり、手元での作業も遠くなってしまって何をしているのかよくわからなかったりすること
	9.	家族だけの介助では難しいこと.休けいスペース、おむつ替えのスペースなど環境が整っていないこと
	10.	感染などをとても予防して生活していかないといけないので、あまり多くの人々が集まる場所へはなかなか行きたくても行けないのが現状で少しでもできる範囲で過ごしています
	11.	移動、休息場、看護体勢
	12.	できる場所・施設が近くにない.障害者を受け入れてもらえるか.費用が高い
	13.	車イスなので空間的に狭い所はだめ.トイレもベットのある所でないとだめ.公共交通機関を使うのも、連休や盆、正月など混みあうと分かっている期間は何となく使いにくい。けど電車や飛行機にのせてやりたい
障害特性 (19)	1.	体がちいさいので、動きが制限される。人混みが苦手なので、周りの人が気になって集中できない
	2.	知的にも問題があるが、楽しくスポーツをしたい
	3.	障害別で、ある程度同じ様なすごしの子と利用できる様にしたい
	4.	本人の体調のみ
	5.	泳ぐことはできない
	6.	車椅子に長時間座ることで痰の貯留も多くなり、吸引回数も増える（疲労感 up する）
	7.	一人では乗れないし、どのように本人を支えるのか.天候、気温.場所（遠いと行けない）.休けいできる場所があるか
	8.	体位の固定（首がすわっていないので）
	9.	寝たきりの意志を伝えられない子供ができるレクリエーション活動やスポーツなどありますか？長時間シーテングに座っている事すらしんどい子供にできる事があれば、教えてください
	10.	重い障害がある子どもを受け入れて指導してもらえる場所があるか。親だけで子どものフォローをすることが難しい
	11.	スポーツは本人もやってみたいと思っているが、右側上肢、下肢にマヒがある為、実際できるのかというと無理なのではないかとあきらめてしまっている。 学校の活動でゴロ卓球などには参加している
	12.	装具とクラッチ、長時間だと車イスになるのでそれでできるものになります
	13.	筋力が弱いため、はやく走ったり跳ったりできない 鼓膜に穴があいているので、プールがもぐれない
	14.	スケート…貸し切り、車いすにすべる加工をする.絵…人手（親 1 人では後始末が大変）.工場見学…車いす可能な工場.生演奏…叫ぶので貸し切り
	15.	人数がそろわない。.車いすも特別な物がいるんじゃないか！？
	16.	ルール等の理解
	17.	ルールの理解ができない。場所がない。ルールの理解が出来ない時のまわりの理解等
	18.	その子にあったように（やりたいように）出来るやり方をみつけて楽しくやって欲しい。介助者必要なので必ずついて欲しい
	19.	ルールを理解できない（勝ち負けがわからない）ので、ボッチャは好きですが、”勝つ”ことを目標にはできない
その他 (2)	1.	上記のようなイベント型だと障壁はあまり考えられない
	2.	年に 1 回しかないのですが、毎年、楽しく参加させて頂いてます。月 1 でニュースポーツを楽しむ会なんかがあるといいのになぁと思ってます

（アンケート用紙）

主となる養育者の方がご回答をお願いします

質問１　基本情報についてお聞きします

※あてはまるところを ○ で囲んでご回答ください。

① お子さんの在籍を教えてください。

（ 小学部１－３年 ／ 小学部４－６年 ／ 中学部 ／ 高等部 ）

② 同居されているご家族についてお聞かせください。

お子さんを含めて、18歳以上（　　）人　18歳以下（　　）人

③ 病院等のリハビリに通われていますか？

（ 現在通っている ／ 過去に通っていた ／ 通ったことがない ）

④ お子さんの移動能力についてお聞きします。（屋内外は問いません。）

※手ひき等の介助は除きます。自力での移動能力についてお答え下さい。

① 何も使わずに歩くことができる。

② 杖や歩行器は使わずに、装具だけを使って歩くことができる。

③ 装具の使用は関係なく、杖や歩行器等を使って歩くことができる。

④ 電動車いすを使うと移動ができる。

⑤ （シーティングや車椅子などを使った）全介助での移動

⑤ お子さんの通学への外出時の主な移動手段はなんですか？

公共交通機関（電車やバス） ／ 自動車（一般車両 ／ 福祉車両）

タクシー ／ その他（　　）

質問２　ご回答者の方の過去の経験などからお聞きします。

① ご回答者の方が子どもの頃にからだを使って親子で遊ばれた経験はありますか？

（ はい ／ いいえ ）

→ ページ４の「いいえ」におすすみください

「はい」の方に質問します。

① 経験された様な体験をお子さんと共有しようと試みたことはありますか？

（ はい ／ いいえ ）

「はい」の方に質問します。

①の試みは達成できましたか？（ できた ／ できなかった ）

ⅰ）それはどのような試みでしたか？

ⅱ）実施されてよかったこと、行う上での苦労、できなかった場合は理由をお聞かせください。

→ ページ５の質問３へおすすみください。

「いいえ」の方に質問します。

① ご回答者の方は余暇としてのレクリエーション活動やスポーツに興味をお持ちですか？

興味があるのでしたい ／ 興味はあるがしたくない

興味はないがしたい ／ 興味はないのでしたくない

質問３　お子さんの余暇活動について（ご回答者に）お聞きします。

※お子さんが学校以外でのような過ごし方をされているかまた、休日の楽しみにはどの様なことがあるかお聞かせ下さい。

① お子さんはどのような余暇の過ごし方をされていますか？

平日の学校から帰宅後：

週末等の休み：

春・夏・冬休み等の長期休み：

② ご回答者の方はご家族でのどのような余暇活動に興味がありますか？

※ １番当てはまるものに①、２番目にあてはまるものに②とお書きください。

	公園で遊ぶ		旅行		遊園地やテーマパーク
	映画や観劇		釣りやキャンプ		スポーツ観戦
	余暇としてのレクリエーション活動やスポーツ		その他（　　）		

③②で選んだ理由をお書きください。（自由記載）

①：

②：

質問４　お子さんの「余暇としてのレクリエーション活動やスポーツ」についてお聞きします。

①お子さんの余暇活動として、レクリエーション活動やスポーツを行いたいと思っていますか？　（ はい ／ いいえ ）

②お子さんは現在、余暇としてのレクリエーション活動やスポーツを行う機会はありますか？　（ はい ／ いいえ ）

→ ページ７「はい」におすすみください。

「はい」の方に質問します。

① どのような余暇としてのレクリエーション活動やスポーツを行っていますか？

※あてはまるもの全て選んで下さい。

散歩／海水浴／ボール遊び／プール／山のぼり／体操／スキー／カヌー

柔道／ハンドボール／ボッチャ／車いすマラソン／車いすサッカー

野球／水泳／ダンス／陸上／卓球／テニス／その他（　　）

② それはどこでお知りになりましたか？（情報源はどこですか？）

学校／医療機関／知人からの紹介／インターネット

その他（　　）

③ いつ頃から行っておられますか？

就園前・幼稚園・小学部（１－３年）・小学部（４－６年）・中学部・高等部

④ それはどんな施設や場所で行っておられますか？

※あてはまるもの全てをお選び下さい。

学校／地域交流施設／スポーツ施設／地域（公園、川、山、海など）

医療機関／その他（　　）

⑤ どのくらいの頻度で行なわれていますか？

週に１回以上／月に１回以上／２－３ヶ月に１回以上

６ヶ月に１回以上／年に１回以上

⑥ どのような事を期待されて余暇としてのレクリエーション活動やスポーツを始められましたか？（ゆもっとも当てはまると思うものを１つお答えください。）

体力向上／身体を動かす機会作り／仲間作り／余暇時間の活用

社会参加として／豊かな人生が送れる／勝ち負けを経験できる

特になし／その他（　　）

⑦ 余暇としてのレクリエーション活動やスポーツは今後も続けていきたいとお考えですか？　（ はい ／ いいえ ）

→ ページ９の⑤におすすみください。

「いいえ」の方に質問します。

① 余暇としてのレクリエーション活動やスポーツを現在されていない理由をお聞かせください。

※あてはまるもの全てをお選び下さい。

身体活動に制限があるため／以前はしていたが今はしていない

周囲の理解がない／面倒である／時間がとれない／意欲がない

親の都合が合わない／兄弟関係の都合／そもそも知らない

お金がかかる／時間がかかる／身体に良くない

疲れる／優先がつく／特になし

その他（　　）

② 余暇としてのレクリエーション活動やスポーツを行う機会があれば、どのような事を期待されますか？※もっとも当てはまると思うものを１つお答えください。

体力向上／身体を動かす機会作り／仲間作り／社会参加として

余暇時間の活用／豊かな人生が送れる／勝ち負けを経験できる

特になし／その他

③ 余暇としてのレクリエーション活動やスポーツは機会があればさせたいとお考えですか？　（ はい ／ いいえ ）

→ ページ９の⑤におすすみください。

③ 今後やってみたい余暇としてのレクリエーション活動やスポーツはありますか？

あればご記載ください。（自由記載）

④ 今後③で記載されたことを行われる場合、予測される障壁があればご記入下さい。（自由記載）

⑤ お子さんはスポーツに興味がありますか？

（あると思う／ないと思う／わからない）

・ あると思うとお答えいただいた方に質問します。どのようなスポーツに興味がありますか？（自由記載）

（例：野球をテレビで見る事が好き）

質問５　スポーツに関する印象についてお伺いします

『2020 年東京オリンピック／パラリンピック』を一つのきっかけとして、近年障がい者（児）スポーツにおきましても世間の関心や注目は高まってきている現状があります。そこでご回答者の方にお伺いします。

① どのような障がい者（児）スポーツをご存知ですか？

※あてはまるもの全てをお選びください。

アーチェリー／陸上／ボッチャ／自転車／馬術／サッカー／ゴールボール／柔道

パワーリフティング／ボート／セーリング／射撃／水泳／卓球

シッティングバレーボール／車椅子バスケットボール／車椅子フェンシング

車椅子ラグビー／車椅子テニス／バドミントン／テコンドー

アルペンスキー／バイアスロン／クロスカントリースキー

アイススレッジホッケー／車椅子カーリング

その他（　　）

アンケートは以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

※平成２８年１月１１日（月）までに返信用封筒に入れてご返送ください

【用語の解説】

※1 サマーホリデーサービス事業とは、小学校、中学校又は特別支援学校に通う障害のある者が夏期休暇期間中において通所して創作的活動、機能訓練等を行うことにより有効な余暇時間の活用と規則正しい生活習慣を維持し、もってその自立を図ることを目的とした事業。

※2スポーツによる社会化(socialization via sport)とは個人がある特定のスポーツを実施する中で(スポーツを手段として)当該社会において必要とされる価値や技術、態度を獲得することである。Socializeeとは社会化される個人を意味している。[3)]

※3地域総合型スポーツクラブとは、人々が身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、(1)子どもから高齢者まで(多世代)、(2)さまざまなスポーツを愛好する人々が(多種目)、(3)初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる(多志向)、という特徴をもち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブのこと[17)]。

【引用参考文献】

1) 松尾哲矢,河西正博,及川晋平,依田珠江,安松幹展:わが国における障害児のスポーツ環境構築に関する基礎的研究. SSF スポーツ政策研究 第 1 巻 1 号

2) 公益社団法人日本リハビリテーション医学会 脳性麻痺リハビリテーションガイドライン 第 2 版 2014 年

3) 藤田紀昭:障害者スポーツの環境と可能性 第 1 版 創文企画 2013

4) 滋賀県教育員会 学校数／生徒数
http://www.pref.shiga.lg.jp/edu/link/suuji01/ninzu/h25/index.html (2016/3/5)

5) 学術文献のテキストマイニング 言語処理学会年次大会 19 年分の予稿データの知的資産としての活用可能性の検討 那須川 哲哉:日本アイ・ビー・エム株式会社 東京基礎研究所

6) 樋口耕一 2014『社会調査のための計量テキスト分析 ――内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版

7) 樋口耕一 2004「テキスト型データの計量的分析 ―2 つのアプローチの峻別と統合―」『理論と方法』(ISSN:0913-1442) 19(1): 101-115

8) 厚生労働省 疫学研究に関する倫理指針
http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/ekigaku/0504sisin.html (2015/7/20)

9) 公益社団法人滋賀県体育協会http://www.bsn.or.jp/smile/clublist/ (2016/3/5)

10) 日本パラリンピック委員会 冬季 5 競技紹介
http://www.jsad.or.jp/paralympic/sports/index_winter.html(2016/1/27)

11) 笹川スポーツ財団:http://www.ssf.or.jp/research/disability/index.html(2016/1/27)

12) 河村光俊,小児の理学療法(PTマニュアル)医歯薬出版(2002/07)

13) CBRガイドライン:http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/intl/cbr.html(2016/1/27閲覧)

14) 日本パラリンピック委員会 夏季20競技紹介:http://www.jsad.or.jp/paralympic/sports/index_summer.html (2016/1/27)

15)松尾哲矢(2005):「障害者スポーツとコミュニティ」,岡田徹・高橋紘士編『コミュニティ福祉学入門―地球的見地に立った人間福祉』,有斐閣,169-181.

16)単位スポーツ少年団における障がいのある子どもの参加実態調査 報告書

17)文部科学省 http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/club/004.htm

18)障害者のスポーツ参加の現状ー地域における多様な現場、多様な取り組み 笹川スポーツ財団

19)藤田紀昭:障害者スポーツの過去、現在、未来特集 スポーツと生涯発達